

2021年09月28日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【明日は、自民党総裁選】

初めに述べておくと、日本の政治は、基本的には、直接的に、外国為替相場を動かす材料にはならない。

だから、明日の自民党総裁選で、誰が総裁に決定しても、外国為替相場の材料にはならないだろう、と考えている。

ただし、外国為替相場の材料にならなくとも、日本株相場の材料にはなるのだろう。

現在の状況では、自民党の新総裁は、日本の総理大臣に選ばれるのだから、明日の自民党総裁選は、総理大臣を選ぶ選挙に相当する。

実際の投票は、自民党員と自民党の国会議員に限られるので、国民の総意を示す選挙ではないが、その行方がどうなるのか、国民の注目を集めている、と言える。

もっぱらのマスコミの事前報道では、一回目の投票では決まらずに、二回目の決戦投票になる、と予想されている。

果たして、本当に、二回目の決戦投票にもつれ込むのか？

個人的には、

「やってみなければ、分からないのでは・・・？」

と、やや疑念を持って見ている。

念のために断っておくと、私は自民党を支持していない。

今後も、支持するつもりはない。

しかしながら、今のところ、自民党が政権与党の中心であることは事実であり、その政権与党の行う政治が日本の政治なので、よくよく知る必要がある、と考えている。

そして、今回の自民党総裁選が、旧体制を変化させる可能性を秘めているのではないかと期待している訳だ。

もちろん、誰が自民党総裁になっても、何も変わらない可能性もある、と、冷めた目で見ているところも、少しある。

そして、今回の自民党総裁選は、その後で行われる衆院選挙の前哨戦であり、誰が自民党総裁になるのか、によって、衆院選に大きく影響が出るのだろう、と考えている。

明日（9月29日）の午後か夕方には、その結果が出ているはずだ。

冷静に、その結果を待ちたい、と考えています。

+++++

先週末には、ドイツの総選挙があり、メルケル首相の率いる政権与党が、第2党に落ちた。

しかしながら、ユーロ／ドルの値動きも、それほど大きい訳ではない。

その様子を見ても、ドイツの政治も、直接的に外国為替相場の材料になる訳ではない、と再確認している。

+++++

（2021年09月28日東京時間14：45記述）